

管理者の皆さんの私物携帯電話は 「使用制限無し」ですか！？

私物携帯電話の勤務時間内の使用に対して会社は社員に面談を実施しました。時間内に使用した乗務員が発覚したからという理由でした。その後、マスコミ報道と職場の掲示によって改めて周知されました。また、12月1日以降、会社は当直助役の業務指示によって乗務点呼の都度に個人の携帯電話の電源OFFの確認をしています。

こうした乗務員に対する指導は徹底してやられており、ただでさえも時間管理が大変な中で多くの乗務員が神経質になっています。安全を守るために従事する乗務員に対して余計なプレッシャーをかけて欲しくないものです。

一方、管理者(助役)の皆さんは、常々携帯電話を使用し何やら誰かによく報告・連絡をとっています。職場でもそうですが駅のホーム上の旅客がたくさんいる前でも懷から出した携帯電話を使用しています。

乗務員に貸与されている業務用の携帯電話は白色でストラップの紐を首からぶら下げています。仮にホームや列車の中で使用してはたから見ても業務で使用している姿として見えますが、管理者の皆さんが使用する携帯電話は、乗務員のモノとは違う機種ですし、治めている場所はズボンのポケットや上着の内ポケットです。

さらに首から紐でぶら下げている姿は見たこともありません。個人の携帯電話を使用しているも何ら見分けがつきません。これでは乗務員が一生懸命ルールを守っても、管理者の皆さんによる「ルールを守らない一部社員の姿」に見えてしまうのではないのでしょうか。

乗務員に対する指導を厳しくする前に、管理者の皆さんの「立ち姿」を見つめ直す必要があるのではないのでしょうか！それとも管理者は乗務員と違って許される「何でもアリ」で許されるのでしょうか？

添乗中の携帯電話の確認は 行き過ぎた行為ではないでしょうか！

最近では、管理者が添乗した時に、私物携帯電話の確認を行うようになりました。この行為も、乗務点呼時に確認しているにも関わらず何度もしかも、乗務中に確認することは余計なストレスにもなりますし、そもそも社員を信用していないのではないのでしょうか。